

・雨でも休まず12年目に入る、第258回、259回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：4月 5日（第一日曜日）：小原本陣の森・団地化を目指す、弁当持参
*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
今月から「生命の森宣言・東京」と交流。
- ・臨時活動：4月4日・5日（土・日）：“相模原市さくら祭”に参加：森林広報活動
- ・定例活動：4月19日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
*一般むき、参加費400円、主食・自分の食器持、飲料水。
.....
- *注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
・持 参：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、自分の食器
- *注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

林業の新しい兆し

林業が行き詰まって、森林が苦悩の色を見せている。2年程前から京都の日吉町森林組合がドイツ林業の“林地団地化・集約施業”と言うシステムを取り入れて活路を開き掛かっているという話を聞いた。好奇心の強い当会は、昨年9月、この方式を取り入れた群馬・多野東部森林組合を11人で視察した。従来の森林整備と異なるのは、工場生産のような仕組みで木材が伐り出されており、その合理性には驚かされた。

ひと月程前にNHKの特集で施業方法を紹介していた。集約施業システム特集について、かなりの反響があったようだが3月25日、全国森林組合連合会が「集約施業・全国展開シンポ」を行うとの情報が入った。

このシンポに全国から林業関係者が192人参加して、午前9時～午後4時30分まで、昼休みも惜しんで事例報告・パネルディスカッション（熊本・愛知・愛媛・群馬・岐阜の森林組合）午後にはポスターセッション・事業発表会（北海道・宮城・秋田・東京・新潟・三重・山口・高知・宮崎の森林組合）が開催された。午前・午後を通じて、いずれの森林組合の報告も必死・真剣の取組がアリアリで、京都・日吉森林組合が火を付けた“提案型施業＝林業改革”を感ずる内容であった。

当会からは、丸茂・川田会員と石村が参加したが、日吉森林組合の湯浅参事ともお近づきになり直接、林道設営のご指導を受ける幸運にも恵まれた。全国森林組合連合会の主催と言うことは、国（林野庁）が本腰でこの施業方法を取り入れようとしている意味を持っている。これは、“林業の新しい兆し”で、いろんなことを学ばせて頂くと同時に、林業の将来に希望の持てる報告会であった。但し、森林の経済性が強調されて、環境保持視点が殆ど無く、この勢いで進めば拡大造林とは別の意味で、環境・生態系破壊になるのではないか・・・心配だ（石村記）。

小原本陣の森・定例活動 3月1日(第1日曜日)

Forest Nova 武蔵工業大学1年 小林 悟

3月。まだまだ肌寒さを感じますが、私の近所では梅の花が咲いていたり、どことなく春の息吹を感じるようになってきました。

私自身、小原での活動は2度目な上に久々であったためか、集合場所がはっきりと把握しておらず、かなり遅れてきてしまいました。それ以前に電車の乗り換えを失敗してしまったのもあるのですが。到着するまで、少し待っていて下さったようで申し訳ないことをしてしまいました。

今回は、最初から最後まで、木の伐採を行いました。本格的な木の伐採作業は、今回参加するのが初めてです。急斜面で行う伐採作業には、やっぱり大変そうでした。木の伐採をする際には、倒す予定の方向から見たほうが、障害を見つけ易いそうです。木を切り倒す前に、チルホールという道具を使いました。

チルホールは、木を倒す方向を調整するために使っているみたいですね。木を引っ張れる程の道具、いったい中身はどのようなになっているのでしょうか。気になります。

途中、木が他の木に掛かったことにより、チルホールでワイヤーを引っ張ったり緩めたりすることで、倒す必要が有る状況になってしまいました。そのときの、ワイヤーを引っ張る際の作業がきついこときついこと。めったやたらに力をかけないと引っ張れないということに。非力な私では、無理でした。力つけないれば・・・。



久々に活動に参加すると、やっぱり森の中って、いいなあ、と思いますね。今後も出来るだけ参加していきたいと思います。



.....
学生が交代で投稿してくれている。活動参加にいろんな受け止め方があり、若い人の感受性にも刺激を受けて参考になる(石村記)。

「春・あたたかき、野点の日」

春が来た。花壇の紫のクロッカスの出迎え。芽吹く緑、鳥の声、そして人々の動きも身軽に活気づく春の森！、参加者は42人。

- ・木工班は白煙（グラインダで削る木粉）を上げているのは、木の大テーブルをチェーンソーで挑む雄、大学2年の斎藤学生、松尾師匠に見守られながら“難しい！”と言いつつも、その打ちこむ姿にシャッターを思わず押しまくっている私。大坪さんと望星高校3人組は、相模原市・さくら祭で人気出し物SL列車、待合いすの塗り仕上げに余念がない。若者で活気づく木工班でした。
- ・学生ノバはこの2年、大活躍の先輩達が卒業式で今日は不在だが、新入学生を引継いだ斎藤学生が佐々木ファールの指導で、チルフールド（材牽引機）で倒伐に真剣に取り組んでいる。スナリとは行かないが指導に従って見事、ドーンと轟音を響かせて大木を倒す。新入組はその迫力に感激したとの感想。
- ・望星高校生は、伐り出した竹を割いて次回の植林の準備に「疲れた！」と言いながらも本当に良く頑張った。
- ・花畑では春うららの中、応援の女性陣で活気づいて“プロの剪定”と丸茂指導員をして言わしめる。そして、川田庭匠の腕前が大いに発揮された一日。
- ・昼食は、具の中に汁が見えるような？ケンチン汁をお代りしておなか一杯。



そして、この三月の恒例“梅園の野点”。梅の花びらの下で頂くお抹茶、赤い毛織、“在釜”と書いた幟、掛け軸、鉄瓶、打ち出の小槌の飾り小物、優雅なユッタリとしたひと時。例年のように暖かい野点を演出してくれる。指導の栗田ご夫婦の優しい佇まい、豊かさ、お人柄、自然と人との間の温かさこそ幸せなものとして改めて、再会に感謝・感激の私。



若柳嵐山・FSC材でつくる「森の積木・原木」を積み出した。製材は小田原の大山木材、加工は箱根寄せ木細工の技能者・小川富一さん、仕上げは相模湖町の「福祉作業所・やまのべ館」にお願いしている。

環境・経済・持続的社會づくりに拘った製造・流通のシステムづくりのモジュールとして取り組んでいる。

■緑のダム・湘南の森

緑のダム・湘南の森 活動に参加して

新人歓迎会の際、佐藤さんからお話を伺って、早速参加させていただきましたが、何分にもまだ2回だけ。皆様に活動の内容をお伝えするまでには至っておりませんが、新人だから、初心者だから素直に感じたままをお伝えいたします。

活動場所は、平塚市と大磯町の境にある標高181mの浅間山付近、湘南平にはレストハウスとテレビ塔があるのは、皆様よくご存知のことと思います。1957年(S32年)、自然公園とする計画を立て開発整備し、湘南平と命名されました。半世紀の間に、開発と荒廃を経験し今日に至っています。

湘南の森代表の岩澤由美子さんを中心に10名ほどのボランティアの方々が、3年前から放置された広葉樹林の下刈りを中心とした森林保全作業を行っています。神奈川会へ参画要請があり現在具体的な共同作業を模索中とのことです。神奈川会が参加した活動の初回は、昨年7月26日の共同作業。12月に6回目を迎えています。2月からは、活動も月2回と充実し、作業道具のノコギリ、ヘルメットは、ともしびショップに預けられるようになり、行きかえりの負担が軽減されました。

私は2月から加わりました。大きな皮軍手を借り、ヘルメットを被って、東西500m、南北100mの現場へ。3mを越すような竹が生い茂っていたこと。藪の中から見晴台に使っていたような階段が現れたり、ベンチやゴミいれなど出てきて驚かれたそうです。初期段階での苦勞がしのばれる感想を聞かせていただきました。

ヘルメットに「緑のダム」「湘南の森」と、表示されています。刻印を見て、散策されている方から、「下で大きな木を切り倒している。違法伐採ではないのか？」質問を受けました。佐藤さんから、私達は平塚市から依頼されて作業を進めていること。伐採地は私有地だと思います、と回答していただきました。ヘルメットの刻印の重みと共に、現場を理解することの大切さを感じたエピソードです。



カタクリの咲く場所という皆さんはどこを思い浮かべますか？以前湘南平にもカタクリが咲いていたそうです。私達の手で甦らせた、カタクリを是非見たいと思います。

建設会社のキャッチコピーに「地図に残る仕事」というフレーズがありますが、私は人の心に残る場所を復活させる活動のお手伝いをさせてもらいたいと強く感じました。是非皆さんも湘南平へ！！(水上真知子記)

2月28日の作業日から、刈払い機を借用することが可能となり、早速使い始めました。この日があろうとの予想で、昨年10月に講習を受けて資格を取得しておいたのが役に立ちます。これで頑固な竹やぶを刈り払う能率が飛躍的にアップします。多少の騒音はご勘弁願ひ、安全に気をつけながら活用してゆきたいと思います。(佐藤(憲)記)

■湘南の森・測量研修

2月17日9:30-16:00

参加者：中村誠、山本明子、水上真知子、五十嵐恵子、山路洋護、佐藤憲隆、近藤素英(敬称略)

「湘南の森」で、測量研修を行いました。今回は、佐藤さんに企画していただき、今後、結果を湘南の森の現地調査に利用する目標で行いました。



・中里山検査（協力協約森林整備）

3月19日、「小原本陣の森」の最奥部で取り組んでいる0.75haの間伐率25%、枝打ち6mの“中里山・森林整備の中間検査”を受けた。神奈川県・県北地区県政総合センターの池田検査員、相模湖町・環境経済部の井上検査員が立ち合ってくれた。



神奈川県と相模原市の検査員

この森は、取り付きから中里山までは、急斜面の共有林（地権者は相模原市、地域の9人の方の手による植林地）で、ここに至るまでの経路づくりに大変な労力を強いられ整備は、やっと今年に入ってからの作業。月一回のボランティア活動でどの程度の作業が出来るかと言えば、微々たるもので検査を受けたと言えども、まだまだの状況。契約期限まで10日ばかりだが、地元の林業者の応援を得て突貫工事が必要で進める。池

田・井上検査員は、その辺りの状況は良く理解してくれて、「くれぐれも、事故の無いよう、無理しないように」と言った。

検査終了後、基地広場で「今後の森林整備をどのように進めるか」についてアドバイスを貰った。治山治水・森林整備は、国土保全・国家的な事業であるから国の政策・制度と協力し互いの立場を理解し合って行かねば、成し得ない事業だ。

・地域活性化1：小原宿町なみ保全（小原宿活性化推進会議事業）

3月1日（第一日曜日：定例活動日）小原町内会は、地域の活性化のために甲州街道小原宿街道沿い古民家と小原宿の夜間ライトアップを実施した。

古民家のライトアップは見事で、街道沿いにロウソクぼんぼりの灯りがユラユラと、小原本陣では、飾り雛・吊るし雛に篝火（かがり火）が映えて見事な幻想の世界が幻出した。ここまで持ってきた小原町の人々の努力とこれを支える相模湖町の観光振興係の努力は、如何ばかりあったらうと思われる。この事が可能となったのは本来の小原宿の歴史・文化性と“小原本陣祭：大名行列”を続けてきた長年のノウハウの蓄積があったからだろう。今回は、初めての試みであったから、ささやかに小原宿だけの活動であったが、これを継続・積み上げれば、この幻想の世界は広く人を引き付けるだろう。小原町の活性化活動には当会もチョッピリとお手伝いをしているのだが、こんな歴史・文化の発生の原点に立ち会えるとは、本当に幸運なことと思う。

これに関連して21日、小原町の人々26人と長野・奈良井宿を視察した。この山奥に忽然と現れた歴史・文化の後世への伝承に、これを成し遂げた人と地域の人々のご努力に頭を下げる。小原町の人々の心に火が付いたとも感じた。

・地域活性化2：孫山景観ルート開削（小原宿活性化推進会議事業）



急坂には階段を付ける

本年20年度活性化会議事業として、小原集落から尾根下部・天明の祠まで約300mのルート作りに取り組んでおり、21年度は、祠～孫山迄の約900mの景観ルート開削を計画している。

三ツ星ミシュランの観光地として登録された高尾山から少し足を延ばせば、小仏峠経由で孫山に出る。小原本陣尾根の最上部が孫山(標高542m)である。ここから小原本陣まで下る尾根は、足元に相模湖、中景に丹沢山塊、遠景に富士山を望む絶好の場所にある。当会が“小原本陣の森整備”に熱心なことから推進会議から景観ルート開削の依頼が来た。

森林は、公益性・多様性なるが故、森林NPOは森林整備だけではなく、地域の活性化事業にも深く関わって都会の人々に森林の大切さ、楽しさを知ってもらうための活動も実践している。

担い手が育っている・・・

- * 学生連合 Forest Nova
- * 東海大付属望星高校生

当会活動は、10代・20代学生、青年たちの多数の参加が特徴なのだが、森林活動に参加するだけでなく、担い手として育って来ている。

1 先ず、今年大学卒の二藤学生は、森林の担い手を目指して4月から岐阜の森林専門学校に2年間の育成過程に進む。彼は、森林担い手として育って“若柳嵐山の森”に戻ってくることが出来れば嬉しいと言った。

また、滝沢学生や加藤学生も環境問題に熱心な企業に就職する事となった。この2年間の当会での活動が、人間的な成長となって認められと言うことなら嬉しい。

- 2 通信制：東海大付属の望星高校生は、当会の“若柳嵐山の森”で宮村教諭の良き指導と学校のご支援もあって、文科省のSPP (Science Partnership Project) との取り組みとして活躍している。その内容は、生態系を核とした森林の保全・再生だが、事前学習、現地実習、事後学習まとめ、で構成されている。そして、森林学会にも成果は発表をすると言う驚くべき高度な目標も目指している。頑張れ、望星高校生！。



藪の中！天明（250年前）の祠

NPOの活力源

これまで幾人かのNPOのリーダーと知り合ってきた。アサザ基金飯島さん、シーズの松原さん。小原町活性化推進会議に関わることで地域起こしに取り組む、鳥取鹿野町の小林さん、長野奈良井宿の篠さんである。

この方々には幾つかの共通の特性がある。即ち、強烈な情熱に基づく使命感・行動力と謙虚さである。それは、外の人ばかりでなく当会内部の仲間たちの特性でもある。

使命感を持って行動するこれらの方々には既に、損得はずでに眼中にない。良いと思えば唯、実行あるのみだ。また、行動する中で予期せぬ様々な壁にぶつかるが、もうギリギリのところまで追い詰められて・悩みぬいてどうしても越せなかった課題が、ある日突然に解決に至ることがある。そんな時、人間の力を遥かに飛び越えた「自然の摂理」のようなものを感じる。

「謙虚の心」はこの大自然のパワーに遭遇知ることによって生まれてくるのではないだろうか。「自然の摂理」に守られているなど感ずる事が、NPO活動に新たな活力源となって次のステップへと行動が移せるパワーとなるのだ。このような事が体験出来ることも活動の喜びなのである。

当会活動は12年目に入るが、「雨でも休まず」を合言葉に、ひたすらにコツコツと活動を続けて来た。更にこの先も初心を忘れることなくこれを遂行し、「一人前のNPO」と呼ばれるようになりたいものである。

森林保全再生は、国と国民の協働があつてこそ。

4月4日～5日、相模原市役所前の大通りさくら並木で60万人の人出の「さくら祭」がある。

市役所横の第二駐車場(および環境情報センター)を使って森林広報イベントを開催する。当会の森林広報は、「緑のダム・活動理念：環境破壊と言う負の遺産を子孫に残さない」を具現化するために相模川流域の事業者と協働して進めている“環境と経済が融合する持続的社会的実現：木を使う事は、森を守ること”と言う活動成果を世に問うものでもある。

- 1 2月11日に相模原市の橋本で開催された「水源環境の保全再生、県民フォーラム」では、山梨県から橋内知事、神奈川県から松沢知事、相模原市から加山市長が出席して「それぞれ、地域特性に対応しつつ、地域と連動した森林保全・再生を進める」合意した。これを県民・市民の立場から下支えをしたいと言う意思表示だ。
- 2 また、林野庁は、「林地集約化施策」を推進しており、当会はこれに呼応して当会のフィールドでも集約化施策に挑戦しようとしている。国の政策として資金と制度に保護された森林組合でも難しいこの政策に資金なし、制度の保護なしの一介の森林市民団体である当会が何故、これに取り組むか。

森林・治山治水事業は国土保全事業である。国土保全事業は、全ての国民の理解と協力なしには成し得ない事業でもあり、森林保全は、国民自ら自らの生存を守る事業でもある。当会は、神

奈川ボランティア基金事業や相模原市の支援する小原宿活性化推進会議事業で、行政の持つ力をまざまざと見せられてきた。また、行政は国民の協力なしには、政策を形にすることは不可能であることも知った。

雨でも休まず・・・の12年間で培った当会の森林活動現場の実践・実績があるからこそ、少しは地域の林業行政に影響力を及ぼす力を持った。環境問題が人類存亡と言われる時、“森林は癒し”と言いながら森の中で遊んでいる訳には行かない。活動に責任感・使命感を持つことはキツイが、当会は、好むと好まぬに関わらず、いつの間にかそのような団体になってしまった。個人に運命があるように団体にも運命・使命があると思う。

使命を持ってしまった以上は、苦しい事を楽しいことに置換えれば良い。「全ての市民+行政+業際+学際・・・全ての人々の協働」こそ、荒廃の進む森林の保全再生の唯一の途である。

.....

ご案内：：さがみはらの環境を守ろう！（相模原市・さくら祭）

大都市に隣接して森林を58%抱える相模原市の森林の環境・経済を訴える。テーマは“木を使う事（経済性）は、森を守ること（環境性）、地域社会（社会性）の活性化”。17団体参加。

日時 平成21年4月4日（土）午後 1時～午後5時

5日（日）午前10時～午後5時

場所 市役所横：第2駐車場2階、および環境情報センター

参加 上 流 藤原林業・飯島林業（FSC 製品紹介）、山梨県有林課（FSC パネル）、栄住産業（屋上緑化）、ヤマナカ産業（ドールハウス）

中 流 NPO 緑のダム北相模（FSC 積木）、NPO・SHS 友の会（健康住宅）、相模湖鉄道愛好会、相模原都市産業研究会、学生連合フォレストノバ、相模原青年会議所、相模原環境を良くする会、相模原市資源環境推進課、

都市部 森想人（FSC 住まい設計）、みんなの森（木工教室）、FSC ジャパン（FSC グッズ）

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模

事務局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林 3 - 35 - 9

発行人 : 緑のダム運営委員会、T&F 03 - 3411 - 1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体 : 神奈川県（県央地域県政総合センター、政策部・土地水資源対策課、環境農政部・森林課）、セブンイレブンみどりの基金、毎日新聞社（水と緑・地球環境本部）、相模原市（市民協働推進課）

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、東急コミュニティ